SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

W022　浜松市北区奥山の枕状溶岩（静岡県GEO DATA(19)：地学散歩(98)）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-12-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 青島, 晃, 小野寺, 秀和, 加藤, 国雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00026937

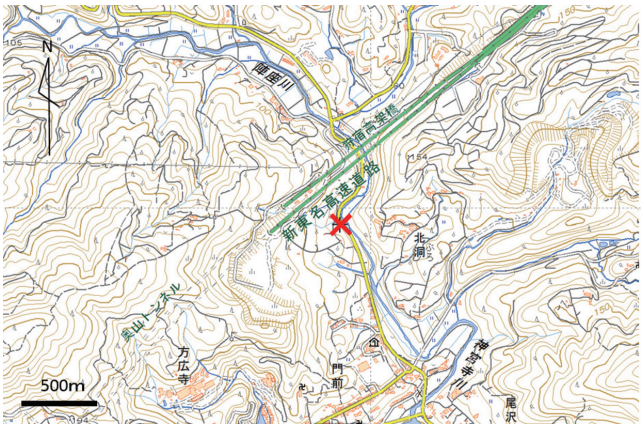
W022　浜松市北区奥山の枕状溶岩

左スケールの赤と白の間隔は 20cm

浜名湖の北方にある竜ヶ岩洞から奥山方面にしばらく進むと，方広寺にはいる手前の三叉路に出る．この三叉路を狩宿方面に直進し，800m ほど進むと，右カーブ手前の左側の道端の崖に，枕状溶岩の露頭がある．

ここの枕状溶岩は，暗緑～黒色をした緻密な玄武岩が，長径 60～100cm，短径 50～70cm 位の枕状となって 20 個ほど積重なっている．枕状溶岩の断面を見ると，中心から放射状または同心円状の節理を持つものもある．岩石を割って，ルーペで観察すると，ひとつの枕状溶岩の外側ほど緻密なガラス質になっていることも分かる．これは，海底火山の噴火により溶岩が水中に噴出し，急冷したためである．また，枕状溶岩の隙間を角礫状に破砕されたハイアロクラスタイトが充填している様子も見られる．

この付近の岩石は，枕状溶岩などの火山噴出物や斑れい岩やかんらん岩などの珪酸分の少ない貫入岩が多く，変質して暗緑色になっているものがほとんどである．これらの岩石は西南日本の三波川帯と秩父帯の間に分布しており，一般にこれらの変質した火成岩類を御荷鉾 (みかぶ) 緑色岩類と呼んでいる．御荷鉾緑色岩類の年代や成因は，今から約 2 億～1.4 億年前の中生代ジュラ紀に，海底火山活動によって形成された海台や海山の苦鉄質火山岩類とその深部で形成された苦鉄質・超苦鉄質集積岩が，山体崩壊を伴いながら沈み込み，三波川累進変成作用を受けてできたものと考えられている（榎並・毛利，2006）．



国土地理院ウェブサイトより引用，加筆

なお，この露頭は現在行われている道路の拡幅工事に伴い，将来消滅する可能性が高い．

引用文献

榎並正樹・毛利勝廣（2006）：7.3 御荷鉾緑色岩類．日本地質学会編，日本地方地質誌 4，中部地方，248-249，朝倉書店．

（青島　晃・小野寺秀和・加藤国雄）